

2016年11月18日(金)～20日(日)開催

マレーシア「マンガフェスティバル in マレーシア」

(1) 開催までの経緯

前年度までの間に、本事業の対象4ヶ国の中でインドネシアとタイの2ヶ国では、著作権普及啓発のイベントを開催しており、今年度は次のターゲットということで、マレーシアでの開催を計画した。

マレーシア知的財産公社(MyIPO)へも直接、タイと同様にコンテンツ業界関連の実施イベントの開催について尋ねたところ、把握をしておらず、実施に向けて暗雲が立ち込めた。こちらでも独自に日本コンテンツに関連した実施イベントのリサーチを行い、候補をいくつか挙げた中で、文化庁とも協議した上で、前年度はタイで開催されたコ・フェスタ関連イベントである「マンガフェスティバル」が今年度はマレーシアの首都クアラルンプールで開催されるということで、昨年度に続き協力をさせていただくという形で実施することとした。(※当イベントの主催は実行委員会並びに経済産業省。CODAは“後援”として名を連ねている。)

「マンガフェスティバル」はコミックなどの展示や現地企業とのビジネスマッチングにより、当該国とのコミュニケーションをより高めることで、海外への日本マンガの発信を強化するとともに、出版業全体の国際競争力の強化及び国際ビジネス展開に寄与することを目的としたイベントであり、その中で昨年度は著作権啓発グッズの配布と現地一般消費者へ向けての著作権〇×クイズを実施した。

今年度マレーシアでの開催では、他の実施イベント時と同様に、コンテンツの利用と著作権に係るアンケート調査を行い、その回答者へ著作権啓発グッズの贈呈、そして現地一般消費者へ向けての著作権〇×クイズを実施することが決定し、マレーシア知的財産公社(MyIPO)に対して、著作権クイズの解説者を要請した。

(2) 実施概要

開催日：2016年11月18日(金)～11月20日(日)

開催時間：3日間とも10:00～20:00

開催会場：クアラルンプール ISETAN KLCC 店 2F イベントホール

主催：マンガフェスティバル in マレーシア実行委員会、経済産業省

後援：一般社団法人 コンテンツ海外流通促進機構(CODA)、独立行政法人 日本貿易振興機構(JETRO)、一般財団法人 音楽産業・文化振興財団(PROMIC)、在マレーシア日本国大使館、

協力：株式会社アニメイト、株式会社イーブックイニシアティブジャパン、株式会社紀伊屋書店、大日本印刷株式会社、株式会社トーハン、トランスコスモス株式会社、公益社団法人日本マレーシア協会、株式会社ネルケプランニング、株式会社三越伊勢丹ホールディングス

【実施内容】

1. コンテンツの利用と著作権に係るアンケート調査と著作権普及啓発グッズの配布
3日間とも、13:00～20:00の間で、イベント来場者を対象にコンテンツの利用と著作権に係るアンケート調査を実施した。目標数は3日間合計で450名。回答者数は3日間合計432名。回答者に対しては、片面に“SAVE COPYRIGHT”のプラカードを持った女の子の描き下ろしイラストが描かれたMyIPO、文化庁、CODAロゴ入りクリアファイルを贈呈した。

【調査時間】

11月18日（金）・19日（土）・20日（日） 13:00～20:00 （※途中休憩等数回あり）

【調査目標数】

各日 150名 3日間合計目標 450名

【回答者数】

3日合計 432名

【調査人員】

マレーシア現地女性スタッフ4名

2. 著作権〇×クイズ実施

3日間で計5回にわたり、イベント来場者を回答者として著作権に関する〇×クイズを実施した。

【実施時間】

11月18日（金） 18:00～18:30

11月19日（土）、20日（日） 両日とも15:30～16:00、18:00～18:30

【クイズ解説者】

11月18日（金）18:00～18:30、19日（土）15:30～16:00、18:00～18:30

文化庁 長官官房国際課 海賊版対策専門官 野田昭彦氏

11月19日（土）、20日（日）18:00～18:30

マレーシア知的財産公社 (MyIPO) 著作権部 部長

Mohamed Fairuz Mohd Pilus 氏

11月20日(日) 15:30~16:00、18:00~18:30

一般社団法人 コンテンツ海外流通促進機構 事務局担当部長

渡部清隆

【クイズ参加者】

11月18日(金)、19日(土) 15:30~16:00、20日(日) 15:30~16:00は、
各回とも40名程度

11月19日(土) 18:00~18:30、20日(日) 18:00~18:30は各回とも60名程度
年齢層は10代後半から50代くらい。男女比は男性4:6女性

【出題クイズ】

20問を用意して、各回前半10問、または後半10問を出題した。65%から80、90%
程度の正解率で、中には100%正解の問題もあった。

(※「音楽やコンピュータプログラムは、著作物である。」という問題は正解率100%)

これまでの会場と比較すると小さいスペースではあったが、参加者は皆楽しそうに、
そして真剣に解説に耳を傾けていて、クイズも大変盛り上がった。

また、クイズ終了後に野田氏をつかまえて、さらに質問をする人も数名見受けられた。

(3) イベント実施総括

基本的には昨年度タイのバンコクで実施した日本マンガのイベントと同内容のものが、今年度はマレーシアのクアラルンプールで開催されることになり、今回もその中のB to Cのアプローチということで、一般消費者を対象とした調査と普及啓発を行った。

昨年度のタイでのイベントと以下について単純に比較すると、

- ① 会場：まずは場所がクアラルンプール・シティセンターと呼ばれるペトロナスツインタワーが建っている地区で、観光客や生活水準の高い人が多い地区であったのと、19日土曜日にはこの一帯で大規模な政治デモが行われたこともあり、賑やかさはバンコクの時よりも少なかった。

また、会場も出入口となるところが1ヶ所しかなく、いわゆるオープンなスペースではなかったため、通りすがりの人の目を引くのが難しかった。

さらに会場のまわりの売り場が、寝具や食器といった、日用品売り場に隣接したスペースであったため、あまり会場の雰囲気とマッチしていなかった感があった。

② 来場者：上記のような会場であったため、アンケート調査人数も当初の目標を下回ってしまっただ。人の流れがあまりなかったこともあるのか、来場者のリアクションもバンコクと比べ、少々シャイなように感じた。同じように現地女性スタッフも皆真面目な印象を受けた。

昨年度のバンコクでの同イベントと比較すると、場所柄や宗教の影響もあるのか、“開放感”が今までイベントを実施したインドネシアやタイと比べて、正直なところ少なかったように感じられた。全体的な盛り上がりが若干少なかったように感じたが、今回の状況＝クアラルンプールの実状とは一概に言えないと思われるので、今年度は一例として、次年度も企画内容が本事業にマッチしているイベントがマレーシア国内で開催されるようであれば、再度出展し、消費者の感覚を実際に肌身で感じ、意識調査等行うのが良いかと思われる。



アンケート調査の様子



○×クイズ 解答の様子



○×クイズ 解説の様子



○×クイズ終了後の質問